

Affiliated with the International Association
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOUJI
Chartered October 30, 1994



〒 191-0053
東京都 日野市 豊田 4-25-6
山本 英次 TEL:090-3239-5355
Fax:042-589-5080
E-mail: h_yama1941@samba.ocn.ne.jp

2022年 6月

第324号

The Service Club of The YMCA

東京八王子 ワイズメンズクラブ

会長	山本 英次	国際会長 キム・サンチェ(韓国) 主題「世界とともにワイズメン」
副会長	茂木 稔	スローガン「愛と尊敬で世界を癒そう」
書記	花輪 宗命	アジア太平洋地域会長 大野 勉(神戸ポート) 主題:「100年を越えて変革しよう」 スローガン:「健康第一」
会計	小口 多津子	東日本区理事 大久保 知宏(宇都宮) 主題:「私たちは次の世代のために何が出来るか」 スローガン「絆を深める時」
直前会長	花輪 宗命	あずさ部部长 長谷川 あや子(八王子)
担当主事	菅野 牧夫	主題:「道を拓く〜愛と協力によって」
プリテン	茂木 稔 山本 英次 大久保 重子	クラブ会長 山本 英次 主題:「コロナ禍を乗り越えて、新時代のクラブへ」

今月の聖句(2022年6月)

平和を造る人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。

(新約聖書/マタイによる福音書 5:9)

6月 例会プログラム

- 日時:6月25日(土曜日) 11:30~13:00
会場:Café「海の森」*11時30分までに現地集合
八王子市 元八王子3-2571(八王子城跡手前)
TEL:090-8040-3960(原田さん)
会場不明な方は「並木」まで問い合わせ
担当班:C班-山本、大久保、茂木、並木(信)
司会:茂木
- ・開会 会長
 - ・聖書朗読・食前祈祷 並木
 - ・会食
セットメニュー(デザート、コーヒーor紅茶付き)
*出欠確認時に、予め以下から選択下さい。
1. キーマカレー 2. オープンサンド
3. ハンバーグ(パンorライス)
 - ・報告・懇談
○一年を振り返って(総括) 現会長 山本
○次年度に向けて(方針・計画) 新会長 花輪
○会計の報告 会計 小口
○YMCA報告・その他
 - ・会員1分スピーチ 出席者全員
 - ・閉会 会長

八王子ワイズの一年を振り返って

会長 山本英次

2021年から2022年度のワイズ活動を総括するにあたり2年間に渡る懸念事態がここに至ってもなお、「コロナ」「オミクロン株」のまん延が収束したにもかかわらず、派生型の「BA・2」の感染の恐怖がまだ残っている。このウイルスによる社会生活を始めとする一般の個人や学生生活への影響は計り知れないものがある。

一年前には不安を抱えながらの7月「キックオフ例会」は、藤田先生の家庭菜園の話で盛り上がり、幸先の良いスタートを切ることが出来た。しかし、その後の「第一回あずさ部評議会」はZoomによる参加を余儀なくされ、クラブ例会も「武蔵野

先月の例会ポイント (5月)

在籍	12名	切手(国内・海外)	0g
メン	9名	累計	0g
メイキャップ	1名	現金	0円
出席率	83%	累計	0円
メネット	1名	スマイル	7,500円
ゲスト	2名	累計	83,509円
ビジター	0名	オークション	0円
ひつじぐも	0名	累計	0円

多摩クラブ例会」や「プランターオープン講座」はZoom による開催となった。

8月「第一回エクステンション委員会」や「多摩みなみクラブ・町田スマイリング・町田コスモスの三クラブ例会」は幅広くメンバーを集め、我々も参加する事が可能となりZoom 例会の良さを実感できた。

8月14日台風の襲来の最中の大学セミナーハウスにて「直前会長感謝会」は会場手配が功を奏して、密を避けたリアル例会を開くことができた。

続いての「アジア太平洋地域大会」にはZoom でその日の13時より参加して、夜6時から「武蔵野多摩クラブZoom 例会」に参加という離れ業を行うことができた。

Zoom 例会とリアル例会を交互に開催するワイズ活動をしり目に、コロナ感染者の増加は止まるところを知らず、東京都新規患者数は4220人、日野市は、62人増えて2286人の多くを数えた、

9月に入ると益々コロナ禍の影響が大きくなり、ほとんどのクラブ例会は、休止やZoom 例会になってしまった。

Zoom 例会の良さは、時間や距離を乗り越えて参加できることであるが、「東新部大会」へも参加できたことは画期的な出来事であった。

加えて、夜間の例会開催も可能となり午後8時から10時の「ワイズナイトフォーラム」が開かれ、八王子からも多くのメンバーが参加した。

9月30日に緊急事態宣言の解除宣言がされ、岸田総理の誕生があり新しい日本の再生が始まると期待されたのであるが、10月の八王子クラブ幹事役の「あずさ部大会」が「わくわくビレッジ高尾の森」で開催される予定であったが、コロナ禍の影響が残るとの理由でZoom による開催に変更されたことは残念な事であった。

今年は、あずさ部執行部へ部長の長谷川さん、会計の並木さん、書記の久保田さんの人材を派遣しているの、全力を挙げてのバックアップ体制をとり万全を期していたのに悔いの残る出来事でした。

年が明け「在京ワイズ新年会」はZoom 開催となり、次の第一例会もZoom 開催であったが、甲府クラブより米長氏を招いての卓話を聞き、十分に楽しめたと勉強にもなった。

2月は3月開催予定の恒例チャリティーコンサートの開催の可否を審議した会議を再々聞き、久保田実行委員長の苦渋の決断により開催延期(中止)となり、3回目の延期を余儀なくされたことが八王子クラブにとっては、最も苦しい結論を下すこととなった。

その後、長年に渡りクラブの担当主事を勤めて戴いた「中里敦」さんの山中湖への転勤に伴い、新たに菅野牧夫氏の就任が決まり、盛大に歓送別会を開催し長年の労苦を称える会を催すことが出来た。

大分落ち着いてきた感染症との戦いも終盤を迎え、4月、5月の例会はリアル開催をし、「第3回あずさ部善光寺御開帳評議会」は、長野駅前ホテルメトロポリタンにてにぎにぎしく開催出来て、ワイズ仲間の笑顔を見ることが出来た。

5月には、次年度チャリティーコンサートの出演者を内定出来て小口実行委員長の「一安心」をお届けできました。「風の仲間たち」の演奏を心待ちにしております。

第3回善光寺御開帳評議会 (長野)

小口多津子

何年振りでしょうか、緑深い中央線をあずさ号に乗って、塩尻駅でホームを替えて篠ノ井線に乗ると、しばらくして長野近くに見えてくる姨捨駅からの棚田の風景にゆったりとした気分を味わいました。その緑に目をむけながら、あの十数年前の「あずさ部夢街道歩き」の行事を懐かしく思い出しておりました。

新宿四谷から、終点の松本城まで、当時のあずさ部クラブのメンバーとひたすら歩いた、中央線沿線のあの街道歩き、確か発案元は東京サンライズクラブでした。

とにかく皆が若かった。通過する街道のクラブがコースを担当して、リレーのように繋いで、3年かけて歩き通しました。

5月14日(土)今年度最後の評議会が、長野クラブのホストでその名も善光寺御開帳に合わせて、ホテルメトロポリタン長野を会場にもたれました。

八王子クラブからの出席者は、部長長谷川さん、部書記久保田さん、部会計並木さん、会長山本さん、花輪さん、小口の6名でした。総人数55名でした。

今年度の部長長谷川さんの締めくくりの評議会、今までzoom参加の状態でしたが、最後に皆さんと対面となったことで、参加者には開放感がいっぱい溢れておりました。何よりも長谷川さんの顔が一番に輝いていました。



並木さんのハーモニカによるワイズソング

評議会での議案は、次年度の後藤明久部長(富士五湖ク

クラブ)による7月からの部の活動方針、予算案を出席者に問うもので、すべて滞りなく承認されました。

次年度部長の後藤さんは、そろそろポストコロナへ向けた活動を、まずは顔を見て話そう、と言われました。

次年度は富士五湖クラブ(10月15日)での部会。

第一回評議会は7月16日西クラブ、第二回は2月11日甲府クラブ、第三回は5月13日松本クラブと決まりました。それこそ、あの夢街道歩きの続きになりそうです。

続いて長谷川部長の活動報告でした。長谷川さんは全クラブの例会を訪問、CS活動も殆ど参加され各クラブがコロナ禍の厳しい中で年間のCSを終えられたとの報告でした。これまでの部長さん含め、この2年は、活動や集会が制約され歯ざしりの連続だったこと、そのことを万感の思いを込めて、最後の挨拶を終えられました。

いつも部書記の久保田さん、部会計の並木さんのともに寄り添う姿があって、八王子クラブの皆が、一目おくように見守っていた一年間でした。振り返るとそれがとても心に残りました。

評議会の始まりでのワイズソングが、並木信一さんのハーモニカ演奏でした。クラブにとってはお馴染み例会での演奏ですが、それがこの日は一段と冴えて聞こえたのは私だけでしょうか。

主査報告の中で、目を惹いたのは会員増強主査、標さんの、今準備中である甲府クラブ70周年記念に当たり仙洞田さんを中心に進められている新クラブ設立です。

「甲府やまなみクラブ」6月に設立総会がもたれ、チャーターは次年度になります。

この評議会の為に、前々からのご準備に専念されてきた長野クラブの皆さんの底力を改めて知りました。久しぶりの顔合わせなのだから、思い切り楽しもうという気持ちが伝わってきました。

卓話「多文化共生社会の実現を目指して」

久保田貞視

5月28日(土)例会での卓話は八王子市市民活動推進部多文化共生推進課の萩野主査による「多文化共生の実現を目指して」で、概要次の通りです。

資料はパワーポイント用に作成されたのをコピーして配布し、順にご説明いただきました。

まず、多文化共生については、「外国人も日本人も、地域の一員として共に認め合い、力を合わせて社会を発展させていこう」ということ。

八王子市の外国人人口は1980年には1,206人だったのが2022年には13,200人に増加している。外国人市民の国籍は115か国にのぼり、外国人市民アンケートでは子育て、

住居、医療、仕事でそれぞれ悩みを抱えている。

そのため、市は多文化共生推進プランを作成し、

Ⅰコミュニケーション支援の充実 Ⅱ生活支援充実 Ⅲ多文化共生意識の啓発、国際理解・国際交流の推進を図り、解決している。

Ⅰは市政情報を優しい日本語や多言語で流し、外国人市民が積極的に社会参加できるようにする。

Ⅱは外国人市民が地域で安心して生活できるようこれまでの種々会議やアンケート等を踏まえ、教育、医療、福祉、住居、防災、就労、留学生の生活支援の充実を図っている。

Ⅲは地域に住む外国人や海外友好交流都市との交流を通じて市民の多文化共生意識を啓発するとともに市民の国際感覚を醸成し、国際理解を深める。

地域における各主体の役割と連携では、①市民の役割として外国人支援ボランティアと外国人市民の地域活動への参加 ②地域としての町会・自治会・NPO/企業・教育機関による外国人市民への支援、③行政としては多文化共生の実現に向けた体制づくりを進めている。

具体的には、サポートデスクによる専門家による個別相談、多言語による情報提供、ボランティア団体による日本語の指導、外国人ための防災訓練、外国人市民ネットワークの構築、外国人留学生支援として生活ガイドの配布、住居賃貸代行保証料補助など。

一方、日本人に対しても小中学生での国際理解教育、教員向け国際理解教育研修、職員向け多文化共生研修などを実施している。

最後に八王子市の海外友好交流都市、中国・泰安市、台湾・高雄市、韓国・始興市、ドイツ・ヴェリーツェン市の概要に触れられて、特に台湾の高雄市とは青少年交流、八王子祭りへのダンスチームの参加、ランタンフェスティバルへの団体訪問、図書の寄贈、読書感想画展など積極的に交流を図っている。

以上、市の取り組んでいる多文化共生についての報告でした。

当クラブよりは八王子市が高雄市と友好交流都市を締結した2年後に高雄ポートクラブとIBCを締結し、青少年のオーケストラを誘致し、国際大会・アジア・パシフィック大会での交流始めメールでの写真添付で相互にクラブの活動を紹介している旨伝えました。

あずさ部部長として歩んだ一年

長谷川あや子

第25代あずさ部部長のお役もあと少しで終わります。クラブの皆さんの応援を力に精一杯歩むことができました。本当にありがとうございました。思えばワイズメンズクラブに入会して以来、お役のある・なしに関わらずすべての評議会、部大会、東日本区大会に参加してまいりました。あずさ部は東京、山梨、長野にわたる広域の部ですから、何をするにもミニ旅行といった趣きで、楽しい思い出が沢山あります。その楽しい思い、幸せな思いが根底にあるからこそその部長職でした。

2021-22年度はコロナも収束して対面の機会が増えるかと期待したのですが、7月から夏にかけて次第に感染が拡大し、部長公式訪問はなかなか予定が立ちませんでした。キックオフ例会に訪問出来たのは甲府、甲府21、東京西の三クラブでした。評議会も例年通りとはいかず、状況を見ながらホストクラブと綿密に相談しながらの開催でした。第1回のホストは東京たんぽぽクラブでした。「コロナ撲滅ハイブリッド評議会」、賑やかなたんぽぽの皆さんにはいつかわしくないいかめしいネーミングですが、撲滅の意気込みが頼もしかったです。担当主事の小畑さんのご協力のお陰でスムーズに進行いたしました。会場16名、Zoom34名の出席でした。第2回のホストは東京武蔵野多摩クラブでした。「SDC評議会」、最初は会場とオンラインを計画していたのですが、感染が急拡大し急遽、Zoomのみに変更になりました。しかし上條直美氏による講演「持続可能な社会に向かって歩む～身近なところからSDGsを」が素晴らしく、グループディスカッションもあり充実したひとときでした。ホストクラブの皆さんの計画とご尽力のお陰です。第3回のホストは長野クラブでした。今度こそ対面だと念じていましたが、森本会長始め長野クラブのみなさんの用意周到なご準備のお陰で素晴らしい評議会となりました。7年に一度の御開帳にちなみ「善光寺御開帳評議会」と名付けられました。これから先、語り草になるかと思うような評議会でした。

第一回あずさ部ハイブリッド評議会



あずさ部では部員により部長はチャーター順のクラブ輪番制で現在3周目となりました。初代から毎年新しい人がその重責を担ってきました。これはあずさ部にとって素晴らしいことだと思います。今までの積み重ねを大切に、そして新しいことにも果敢に取り組むあずさ部をこれからも目指したいと思います。皆で励まし合って行きましょう。

我が家の姓だけが親戚中で変わっていました

茂木 稔

我が家族の姓は「モギ」であるとばかり思っていました。ところが今回たまたま「終活ノート」を書き始めたところ父親の家系の欄がありました。

前から少し気懸りな事があり、父が亡くなってからは栃木県の父の叔父さん達の葬儀のいくつかに参加したことがありました。その折に親戚の方々が皆「モテギ」と姓を名乗っていました。

そういえば、本家である佐野市の郊外にある本家の方々は皆「モテギ」と言っていたようであった。しかし、私の家族のみは「モギ」で済ませてきていたのであったのです。

そこでなぜ我が家のみその呼び方であるかを調べて見ました。その原因は横浜市に長く住んでいたことが原因であろうという事が判ってきました。

私の父母は戦前の7・8年間横浜の神奈川区松が丘に住んでいました。近くの駅は東横線の反町駅が10分位の所でした。横浜では明治時代から絹の輸出商の「茂木惣兵衛」(モギソウベエ)という有名人がおり、市内の伊勢崎町に野沢屋デパートを設立して、また銀行も興しました。その様な訳で横浜の人達は「茂木」の文字を見ると必ず「モギ」と読みました。

おそらく推測ではありますが、父や母は「モギ」ではなく「モテギ」が正しい姓であることをその都度説明するのが面倒になってきたのではないかと推察されます。

その様な訳で横浜では「モギ」と呼ばれており、それが不自然な事とは思いませんでした。昭和19年に疎開で群馬県の母の里である館林町に住んだがやはり「モギ」を名乗っていました。

今回、この姓の読み方が違っていたことは、今も佐野市に在住しているいとこの独身の女性に訊ねてやっと確認することが出来ました。

役所に出す戸籍は文字のみで他人と別人の識別しており、その読み方に関係が無いのは不自然に思えてなりません。これはアルファベットの名前では起こり得ないことに思えるのですが、漢字文化社会の問題点の一つを見つけた気がしました。

(この文章は空間が出来ない様に編集者が書いたものです)

YMCA 便り

菅野牧夫

先日在京ワイズ会長会ではご無沙汰している皆さんにお会いすることができうれしかったです。

- ◆ 「下町こどもダイニング」(子ども食堂)は、4月18日より通常の方法で再開した。11家族、ボランティア、スタッフなど42人が集い賑やかなひと時となった。開催にあたっては多くの個人、企業よりご寄付をいただいた。
- ◆ 「ウクライナ緊急支援募金」は期間を延長し、8月末を期限に第二次募金の受付を開始した。同盟が中心になり、約100名の避難民を受け入れ、トータルな支援を行っている。東京YMCAには5月16日現在、8,031,482円の募金が寄せられている。
- ◆ 5月21日、「第19回東京YMCA会員大会」がハイブリッド形式で開催され、会場である山手センターとオンライン、合わせて73名が出席した。開会礼拝に続く第二部は上田晶平会員部運営委員長の挨拶で始まり、2022年度の会員部運営委員が推荐された。libyの活動拠点を提供された岸野憲氏・眞理氏に「Volunteer of the year」の感謝状が贈られた。さらに4名のユースリーダーが「Youth Volunteer of the year」として表彰を受けた。菅谷淳総主事による東京YMCAの2021年度報告に続き、第三部では、「これからの東京YMCAをとらえ考える」のテーマのもと、分団協議を行った。松本数実氏からウクライナ支援活動の報告があり、Viktor Serbulov ウクライナYMCA総主事より会員に向けて感謝のメッセージがあった。
- ◆ 6月8日より、夏季キャンプ・スクールの受付を開始する。6つの宿泊キャンプ、3つのデイキャンプの他、水泳、語学、音楽などの各種スクールを準備している。

中大ひつじぐも便り

中大3年 神前

こんにちは。ひつじぐも3年法学部の神前です。今日は先日5/22のゴミ拾いについてお話しします。

場所は二子玉川で、このイベントには多くの大学生(約100人)が参加しました。チーム対抗でゴミの量を競いました。私はゴミ拾いで競い合うのは初めてのことで、ドキドキワクワクしながら挑みました。

二子玉川は一見ゴミは落ちていないようには見えません。しかし、草むらに隠れるように落ちていることが多く、見つけるのが楽しくなっていました。

落ちていたゴミの分類について仲間とコミュニケーションを取ったり、珍しいゴミを見つけた時は自慢があったり、さらに楽しく拾うことができました。

いい天気の中約1時間ゴミを拾いました。集計時にゴミの種類によってポイントが違うことが知らされました。

その理由は環境への悪影響の大きさが違うからです。

例えば、プラスチックの破片は川の生物が食べてしまうと死んでしまい生態系が崩れる原因になる可能性がありますので、ポイントは高めでした。

その点において拾ってきたゴミが地球にどれほどの危険を与えるのか認識することができたので、いい勉強になりました。チーム戦の結果は1位と大差をつけられての敗北でした。優勝できる自信はあったので、とても悔しかったです。

しかし、このイベントを通してゴミの分別するスピードや仲間との連携を深めることができました。なので、次に6月5日に開催されるゴミ拾い甲子園では、培った仲間との絆と経験の全てを活かして、悔いのないように戦って行きたいと思います。

今月の聖句によせて (2022年6月)

今月の聖句は、有名なイエスの山上の説教のうち、「幸いの教え」といわれる言葉の一節です。私達は、日常において、平和を愛する、と言ったり、平和を守ると言ったりするとき、ややもすれば、今の平穏を脅かされないように、波風たてないでそっとしておく、といった、事なかれ主義的、あるいは、傍観的な姿勢になりがちです。

しかし、イエスは、「平和を造りだす人々は、幸いである」といい、平和は造りだすものであるという、能動的な姿勢を求めています。今、ここに起きている矛盾や不条理な問題に立ち向かい、克服していくことによって、平和を造りだしていくことを求めています。

ローマの古い諺に、「汝が平和を欲するなら、戦争の備えをせよ」というものがあるそうです。今、現実には起きている戦争の災禍を目の前にして、私には、この古いローマの諺が周囲で息を吹き返しそうになっているのが感じられます。核兵器の使用すら現実味を帯びて語られるようになってきました。被爆体験を有する日本人として、何を考え、何をなすべきなのか、今、私達は問われているように思えます。「汝が戦争を欲しないなら、平和の備えをせよ」と言う人がいます。この言葉に内実を与えたいものです。多くの人が戦争の備えに傾くときに、「平和を造る」というイエスの言葉を伝えることは、主体的な決意と勇気を必要とするかもしれませんが。

並木 信一

《 報告 》

2022年5月第一例会日時：2022年5月28日

(土) 18:00~20:00

出席者 (敬称略; 順不同) :

【メンバー】山本、茂木、並木 (信)、並木 (真)、

小口、長谷川、大久保、望月、菅野、久保田、花輪

【ゲスト】(休会員) 酢屋

(司会) 久保田

① 開会点鐘

② ワイズソング・ワイズの信条

③ ゲスト・ビジター紹介 酢屋

④ 卓話 「多文化共生社会の実現をめざして」

卓話者; 八王子市多文化共生推進課 萩野主査

⑤ 聖書購読・食前感謝 並木真

⑥ 会食

⑦ 報告・検討事項:

i) 小口多津子次年度CS委員長 チャリティー

コンサートの演奏者として奈須田弦氏を紹介してもらったので、交渉を始める。

ii) 菅野担当主事 YMCA 報告

⑧スマイル・ハッピーバースデー

⑨閉会点鐘

6月のお誕生日
対象者なし

高尾わくわくビレッジ便り

館長 菅野牧夫

先月のブリテンで炊さん場のピザ窯に鳥が卵を産んだお話をしました。しかし親鳥が育児を放棄してしまい、残念ながらひな鳥がかえることはありませんでした。ピザ窯を使うプログラムが入ってきたので撤去することを決めました。鳥の巣と卵は腐らないように処理をして展示する予定です。

わくわくビレッジでは、今年度に入り少しづつ宿泊のお客様も増えてきました。館内のイベントも活発になってきました。ユーススクエア(フロント前の広場)では5月にコンサートが3回計画されました。観客はまだまだ少なくてちょっと寂しいコンサートにはなりましたが、着実に人々が動き始めた印象です。

4月、5月はわくわくビレッジのキャンプやイベントをお手伝いしてくれるボランティアリーダーのリクルートの季節です。大学や専門学校に新入学した学生たちがボランティア説明会に参加してくれています。3名の学生たちが新しくボランティアリーダーに登録の意思を表しています。現時点で継続のリーダーを含めて学生のリーダー13名、社会人のリーダー8名の登録が完了しています。わくわくビレッジでは小学生のキャンプやユース(中学生、高校生)のキャンプを行っており、そのキャンプで育ってきた子どもたちが大学や専門学校に進学し、後輩たちに同じように楽しい体験をしてもらいたいという志をもってリーダー登録をしています。

17年間のわくわくビレッジでの継続した活動が実を結び、良いボランティアのループが出来上がりました。人と人との接触がなかなか困難な世の中になってきていますが、人と人のかかわりの中で人間が得られるものは何にも変えがたい貴重なものであることを信じて、この良いループを継続していくことに力を注いでいきたいものです。ワイズの皆様もご理解ご協力をよろしく願います。



カモ出現